けやき通信

2025.5月
NO.376

―錦織 佳代子―

読書ノート

● しあわせの花束　中原 淳一
中原淳一エッセイ画集　平凡社 コロナブックス

本棚の奥にあったこの本、娘のカヤが学生時代に買ったのだと思う。美しい本。淳一を知っている世代は何歳くらいで

戦後、私がまだ幼ないころ、母は毎晩絵本やおはなしの本を読んでくれた。その後、母は貸本屋で借りた「ひまわり」「それいゆ」などを見て、淳一の絵を描き写していた。大きく見開いた黒目勝ちの少女、モダンデザインの洋服のスタイルブック。「子供のおしゃれ」を見て、母は私にかわいい洋服を縫ってくれた。学校へ着ていくのはちょっとはずかしかった。

淳一は日々のくらしの中で、おしゃれや暮らしの工夫を心がけ、気持ちの持ち方、言葉づかいなど、女性として人間として、生きる姿勢を、やさしい言葉で語りかける。

「快い話し方、さわやかな笑顔、清潔な装い、趣味のよい色彩感覚、てきぱきとした身のこなし、適度なおしゃれのセンス、そんなものが必ず相手に快いものを与えているはずです」。

今は、男性も女性もあの昭和の時代から大きく変わった。おしゃれな手作り洋服の女の子もいつの間にかおばあちゃんに。おしゃれも家の片付けも庭仕事もおっくうに。それでも庭の花を飾ったり、三度の食事作りを工夫したり…。淳一のことばを胸にとめよう。

● 中原淳一のひまわり工房　心ゆたかに過す幸せなくらし方　中原淳一・中原すみれ　平凡社

この本もいっしょにありました。

庭のスズラン。うちのは、10センチくらい。かわいい。

雪彩ヶ峰のスズラン、なつかしい思い出。花ことば「幸福」

今年の春は、うちの小さな庭に次々と咲く花たち。元気!! 場は淡い黄色のモッコウバラに包まれ色とりどりのパンジー、小さなスミレ、スズラン、小菊のような白い花、シクラメン、クリスマスローズ、白いライラック…。GOKIさんが毎日水やりしてくれます。朝晩エサをやるスズメたち、この庭とGOKIさん大好き。

だしマヨ鶏（だしメーカの4ラシンより）

時短料理

（2人分）
鶏もも肉 1枚　酒 大さじ1

A（だし（家にある粉末だしの素）1袋
柚子胡椒 小さじ1（私は入れない）
マヨネーズ 大2）　撹拌する

① 鶏肉にフォークで数か所穴をあけ、酒をふりかける。Aを記載の順にまんべんなく塗りつけ、10分ほどおく。

② 耐熱皿にのせ、ラップをかけ、電子レンジ（600W）で6分加熱、粗熱がとれるまでそのまま、余熱で火を通す。
（私は、玉葱、スナップエンドウを入れ、早目にとりだす。）

町立えびの高原美術館

帰りは名残りの花咲く美術館へ。『新たな一歩 愛媛現代美術家集団の軌跡』、いい絵を観てGOKIさんと2人満足。入館者は私たち2人だけ。外に出るとウグイスの声。

心満たされたとてもよい一日でした。

仙台の孫
ようたろうは
たのしいことといっぱい
みつけてね

元気に成長、
感謝です。

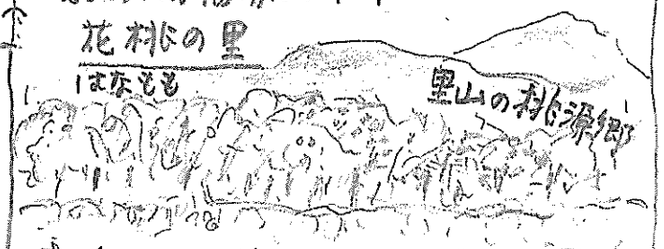
春の一日 4月8日

高知・仁淀川町
中越家の
しだれ桜

俳人黒田杏子の「季語の記憶」にこの樹のすばらしさが記されている。

「一度も枝を切られたことがない、病者というものを全く知らない花の木。その木のたとえようもないすこやかで優雅な風姿」。――。

えひめ久万高原町中津 花桃の里



赤・白・ピンクの美しい花が枝を広げ咲っている。老後のたのしみにと自宅前の畑に植えた40本の花桃が今では650本に。フィンランド、フランス、イギリスいなどに海外からも花見に。「おかげで元気です」と70代のご夫婦